

標題 | えーひだカンパニー(株)がドローンによる水稲防除作業を本格スタート！

(ダイジェスト)

安来市広瀬町比田地区の「えーひだカンパニー株式会社」がドローンによる水稲防除の受託作業を7月末から本格的にスタートしました。

ドローンの導入は中山間地域では有効であり、集落を超えた「広域連携」の主要な事業として中山間地域の持続的な農業発展に貢献するものと期待しています。

えーひだカンパニー株式会社は、今年の3月に株式会社として法人化し、農業を始めとした“地域ビジョン”の実現に向けて活動を行っています。

同社は水稲の防除作業の効率化を図るため、6月に「集落営農体制強化スピードアップ事業」を活用し、ドローン1機を導入し操縦免許を4名が取得するなど実施体制づくりを進めてきました。

これに併行して、防除作業受託について集落内外の農家の要望を取りまとめたところ、比田地区を中心に西谷、布部、宇波など広瀬町内で約110haの申込み（内、ドローンでの作業受託面積は約80ha）がありました。当初の予定では100ha程度の申込みを想定していましたので、予想を上回る要望があり地域からの高い期待が伺えました。

ドローンによる防除作業の課題として、作業条件によって差があるものの、1回のバッテリー充電での稼働時間は約8～10分程度と短く、頻繁にバッテリー交換を行う必要があることがあげられます。しかし、これは技術の進歩とともに改善されるものと期待しています。

こうした課題はあるものの、機体が10kg程度と軽く、一人でも楽にトラックへの積み下ろしができること、わずかなスペースがあれば離着陸が可能なことなど、圃場面積が小さく作業中の移動、離着陸が多くなる中山間地域では大きなメリットがあります。この取組みが集落を超えた「広域連携」の主要な事業として中山間地域の持続的な農業発展に貢献するものと期待しています。



今回導入した防除用ドローン



防除の様子(操縦者は地域おこし協力隊員)